

**登下校メールサービス** 登下校時、小学校の出入り口に設置されているカードリーダーに児童がICカードをかざすことにより、登下校をお知らせするメールが、登録した保護者等のメールアドレスに届くサービス。

**地域包括支援センター** 高齢者の方々が住み慣れた地域で、安心して自分らしい生活を送ることができるように総合的に支援する地域の相談窓口。保健・福祉や医療、介護予防、権利擁護などについて、多くの機関と連携しながら継続的に支援をする。市内には6つの「地域包括支援センター」があり、市から委託を受けた社会福祉法人等が運営している。

**オストメイトとストマ用装具** オストメイトとは、病気や事故等のために腹部へストマ(人工肛門・人工膀胱)を造設した人のこと。ストマ用装具とは、自分で排泄のコントロールができないオストメイトが排泄物を溜めるために装着する道具(袋)のこと。

## アプリを活用した子育て支援 情報発信強化の考えは



桑川 敏男 (たちかわ自民党・安進会)

**問** 現在子育て支援の一環としてLINEの市公式アカウントからプッシュ型で情報を発信していることと思います。欲しい情報だけを設定して選べるようになっていますが、子育て世帯でない人も公式アカウントに登録しており、子育て情報が欲しい人の実数を把握するのは難しいと考えます。令和5年10月から母子手帳と連動したアプリの運用を予定しているとのことですが、こうした実数把握を踏まえて情報発信の強化について見解を伺います。

**答** 運用予定の母子手帳アプリの主な機能として、子どもの成長等の記録ができる母子手帳機能、地域の子育て支援情報の閲覧やプッシュ通知の受信機能、予防接種と乳幼児健診スケジュールの自動作成機能等があります。アプリについて母子健康手帳の配付時や妊婦サポート面接時にお知らせするとともに、ホームページでも周知していきます。子育て情報を適宜更新し、出産・子育て応援事業とも連動した効果的な情報提供のツールとして活用していきます。

一般質問項目 ①地域イベントはコロナ禍からどういった流れになっていったのか ②子育て支援策について

## 子どもの安全を守るGPS発信機 購入補助の検討状況は



大石 ふみお (国民民主党)

**問** 近年、共働き世帯の増加等により、子どもだけで行動する機会が増えています。保護者の防犯意識の高まりに伴い、GPS等の機能を備えた小型端末で子どもの居場所を把握できる見守りサービスの活用が全国各地で広がっており、機器の購入補助を行う自治体も増えています。GPS発信機の購入補助等について、早期に導入すべきと考えますが、導入の検討はしていますか。また、小学校の登下校メールサービスの活用状況もあわせてお示しください。

**答** 子ども用GPS発信機の助成については実施自治体の例を参考に、市でも対象者の範囲や助成金額等、有効活用するための条件を整理した上で制度化に向けた検討をしたいと考えています。登下校メールサービスは、市立の各小学校のPTA等と協力した取り組みとして19校中14校で導入しています。各小学校での取り組みとしていますが、保護者にとって有益なサービスと考えており、引き続き各小学校に案内をしていきます。

一般質問項目 ①食品ロス対策について ②路面下空洞調査について ③無線通信機器の活用について

## 若者の声を取り入れるしくみ 若者会議の実現を



山本 洋輔 (立憲ネット緑たちかわ)

**問** 市民アンケートからも、若者にも潜在的にまちをよくしたいという意識があることがうかがえ、若者の意欲を施策に反映させる枠組みが必要です。前市政においては、タウンミーティングやワークショップなど短時間話を聞く機会はあったものの、施策に反映させるには不十分でした。予算と時間をかけて丁寧な議論をして、若者の声を市政に反映させるしくみが必要と考えますが、市長公約に挙がっている若者会議の設置についての考えを伺います。

**答** 若者の視点からの政策を柔軟に取り入れていくことが、持続可能なまちづくりにつながるものと考えています。これまでも市の政策に反映すべく若者の意見を聞いてきたところですが、必ずしも具体的な事業に十分に反映できていない面もあったと考えています。第5次長期総合計画策定に向けては、若者の意見を聞く場を設けて計画の策定を進めているほか、一定の条件で若者の提言を事業化できるしくみの検討を進めたいと考えています。

一般質問項目 ①若者政策について ②気候変動対策について ③困窮者支援について ④選挙事務について

## 地域共生社会のまちづくり 身近な地域で支えあう社会を



稲橋 ゆみ子 (立憲ネット緑たちかわ)

**問** 地域包括支援センターに地域福祉コーディネーターを配置し、高齢者世帯を中心としながら、障がい者や子どもに関する相談も総合的に対応する本市の方式を評価しています。今後のまちづくり構想として、地域包括支援センターの6圏域ごとに、公立保育園等の公共施設、高齢者施設等を含めた民間事業者が地域でつながることで、身近な地域で多世代対応型のまちづくり、地域共生社会の具現化を目指すことができないかと考えますが、市長の見解は。

**答** 立川に住む誰もが安心して生活ができる、市民に寄り添う優しい社会環境をつくるのが極めて重要な視点と考えています。地域包括支援センターや福祉会館、学校、保育園等、地域に欠かせない場所では日々課題が生じており、地域で支えあう環境が大変重要です。私の公約で掲げる政策を進めることで市民に寄り添う優しい社会環境がつけられていくと考えており、策定中の第5次長期総合計画にも、その政策を落とし込んでいきたいと考えています。

一般質問項目 ①新市長とすすめる「市民が主役」「市民の暮らしに寄り添う」まちづくりについて

## オストメイトの生活支援 助成金額の引き上げの考えは



いしとび かおり (都民ファーストの会立川市議会)

**問** ストマ用装具をつけて生活するオストメイトの方は、皮膚がかぶれるなどこの夏の酷暑で大変辛い思いをされたと聞いています。皮膚のケアなどで装具品以外にも費用がかかります。本市では、ストマ用装具費用の支給決定を受けている方は何人いますか。また、新宿区は今年度4月からストマ用装具の給付の基準額を消化器系・尿路系ともに13,000円に引き上げました。本市も基準額の増額が必要と考えますが、市の見解を伺います。

**答** 支給決定を受けているオストメイトの方の人数については、令和5年度の上半期分として令和5年4月にストマ用装具費用の支給決定を受けた方が250名でした。本市のストマ用装具に関する助成基準額は、消化器系が1か月当たり8,858円、尿路系が1か月当たり11,639円です。ストマ用装具に関する助成基準額の増額については、事業の継続性等の課題があります。この課題を踏まえながら、今後増額について検討していきます。

一般質問項目 ①インターネット投票と期日前投票所3ヶ所の増設を ②オストメイトのトイレ増設を ③給食費無償化への取り組みを始めたい

## 市議会を傍聴してみませんか

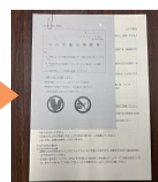
年に4回行われる定例会や臨時会はライブ中継と録画配信をしていますが、会議のある日には議場や委員会室に入って傍聴することができます。

事前予約不要で、受付は傍聴券等を受け取るだけ。補聴機器の貸し出しや車椅子席のご用意もあります。

市役所での手続きの前後や「ちょっと覗いてみようかな」と思い立った時など、ぜひ一度お越しください。



市役所の中央階段を3階まで上がると、右手側に傍聴受付カウンターがあります。食堂・市政情報コーナーのすぐ近くです。



傍聴資料と傍聴券をお受け取りください。補聴機器の貸し出しもしていますので、必要な方は受付職員へお声がけください。傍聴券は退場時に傍聴受付職員へ返却します。



傍聴席の様子です。自由席ですので、好きな席にご着席ください。車椅子の方は専用の席があります。

●委員会の傍聴受付は議会議務局カウンターで行っています。